

令和7年度

「運営に関する計画」（案）

咲洲みなみ小中一貫校

大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校

令和7年4月

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の現状と課題

現状と課題

● 生活指導面

- 本校の児童生徒は、比較的落ち着いて授業を受けることができておらず、規範意識も高く学校のきまりや校則を正しく守っている。（学校評価アンケートにおいて「学校のきまり／ルールやマナーを守っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、小学校で約 95%、中学校で約 95%。）
- 新たに不登校となる児童生徒の割合はわずかに増加傾向にある。

● 学力・体力面

- 学力については、各調査において多くの学年が市または府の平均点を下回っている。令和 6 年度の小学校学力経年調査における標準化得点・中学校チャレンジテストにおける対市平均比は以下の通りで、基礎学力の向上が喫緊の課題となっている。

3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
98.4	94.6	99.8	100.9	102.6	109.3	90.7

- 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を保障すべく、一人一台端末をはじめとする ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図っている。
- 体力向上については、運動意欲と体力の向上を図る教科指導により、中学生小、学生はともに低迷が続いている。日々の食育指導を通して、自らの体力への関心は高めるよう努めている。

● その他

- 本校の児童生徒は自己肯定感が低く、学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがある」の質問に対し肯定的回答を示した割合は、小学生は約 82%（前年度約 80%）、中学生は約 68%（前年度約 59%）といまだ低い状態である。日々のあらゆる教育活動の中でこれを高めていく必要がある。
- 大阪市で 5 校目の施設一体型小中一貫校として、本校の特色をこれまで以上に打ち出し、全市に向けて発信していく必要がある。

2 学校運営の中期目標

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の学校評価アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校85%、中学校75%以上とする。

本市目標 小学校 R6 84% R7 85% 中学校 R6 80% R7 82%
学校の状況 小学校 R6 85.7% 中学校 R6 71.1%

- 令和7年度の学校評価アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校90%、中学校70%以上とする。

本市目標 小学校 R6 81.2% R7 77% 中学校 R6 79.3% R7 77%
学校の状況 小学校 R6 81.6% 中学校 R6 67.6%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点・中学校チャレンジテストにおいての対市平均比を3年～9年の全学年100以上とする。

学校の状況 R6

3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
98.4	94.6	99.8	100.9	102.6	109.3	90.7

- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、8項目すべてで全国平均を上回る。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の学校評価アンケートで「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の質問に対する肯定的回答の割合を小学校96%、中学校90%以上とする。
(R06年度小学校98.8%、中学校76.8%)
- 令和7年度において、ゆとりの日については、昨年度よりも多く設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては3日以上設定する。
- 令和7年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校10,000人、中学校1,000人以上とする。

3 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査および中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校、中学校ともに90%以上にする。
- 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校90%、中学校70%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答をする児童生徒の割合を小学校は57%、中学校は38%以上にする。
- 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校で85%以上、中学校で80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 授業日において、児童生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く)
- 年次有給休暇を5日以上取得する教職員の割合を100%にする。
- 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校83%、中学校70%以上にする。
- 令和7年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校10,000人、中学校1,000人以上とする。

(様式 2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学力経年調査および中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校、中学校ともに 90%以上にする。 ● 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 90%、中学校 70%以上とする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・不登校に関する共有を徹底するとともに、組織としての対応に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>➢ 小学校学力経年調査および中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校、中学校ともに 90%以上にする。</p>	
<p>取組内容② 【2 豊かな心の育成】</p> <p>自尊感情を高めることができる取り組みを各学年で年間を通して実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>➢ 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 90%、中学校 70%以上とする。</p>	

(様式 2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">● 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答をする児童生徒の割合を小学校は 57%、中学校は 38%以上にする。● 小学校学力経年調査および中学校の年度末校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校で 85%以上、中学校で 80%以上にする。● 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。● 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 55%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4 小学校 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">● 児童が、互いに自分の考えを説明し合うことで、自らの考えを深め広げができるような授業を展開する。● 漢字検定への取組を通して、国語の基礎学力向上を図る。	
<p>指標</p> <p>➤ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答をする児童の割合を 57%以上にする。</p> <p>➤ 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。</p>	

取組内容②【4 中学校 誰一人取り残さない学力の向上】

- 各教科において、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を展開する。
- 研究授業週間を設定し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で参観・研究討議を行い、教員一人一人の授業力向上を図る。
- 英語検定への取組を通して、英語の基礎学力向上を図る。

指標

- 年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 38%以上にする。
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 55%以上にする。

取組内容③【5 健やかな体の育成】

- 児童生徒が楽しみながら体力の向上を図ることのできる体育科・保健体育科の授業や体育的行事を展開することにより、運動意欲を喚起し運動習慣の定着に努める。

指標

- 小学校および中学校の年度末校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合を小学校で 85%以上、中学校で 80%以上にする。

(様式 2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く) ● 年次有給休暇を 5 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。 ● 令和 7 年度において、ゆとりの日については、昨年度よりも多く設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。 ● 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 83%、中学校 70%以上にする。 ● 令和 7 年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校 10,000 人、中学校 1,000 人以上とする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT の推進を目指し、一人一台端末を活用した学習の機会を増やしながら、効果的・効率的に基礎学力の向上を進める。</p>	
<p>指標</p> <p>➢ 授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く)</p>	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校務負担の均等化や業務の効率化、取組内容の見直し等を進めることにより、教職員の長時間勤務の改善と年休取得の推進に取り組む。 	
<p>指標</p> <p>➢ 年次有給休暇を 5 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。</p> <p>➢ ゆとりの日については、昨年度よりも多く設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。</p>	
<p>取組内容③【8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図書委員会の活動や環境整備を進めることにより、児童生徒の読書への関心を高める。 	

指標

- 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合小学校 83%、中学校 70%以上にする。
- 令和 7 年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校 10,000 人、中学校 1,000 人以上とする。